

平成 24 年度日本体操学会公募研究プロジェクト報告書

研究題目：小・中学校における体づくり運動の実践と評価に基づく改善

研究者氏名（所属）：

- 大塚隆（東海大学）、大島林子（名古屋芸術大学）、小出高義（北海道教育大学）、
関野智史（筑波大学附属中学校）、住本純（東大阪市立玉串小学校）、
長谷川聖修（筑波大学）、三宅良輔（日本体育大学）、青木竜太（尾張旭市三郷小学校）

報告

1. 目的

平成 23 年度公募研究プロジェクト「小・中学校における体づくり運動の教材開発と動画配信」において、体づくり運動の教材プログラムが作成され動画配信が行われた。本プロジェクトは、その教材プログラムを実際の教育の現場で指導・活用した上で、その成果を評価・検証するとともに、教材内容の改善を図ることを目的とした。

2. 概要

動画配信された運動プログラムは、ラジオ体操第一及び第二をベースとした「なかよしラジオ体操」「ペアラジオ体操」と呼ばれる体操である。この体操を実際に教育現場で実践し、その感想や意見を抽出した。実践は将来教員をめざす大学生に留まったが、ペアで行う、用具を使用する、音楽を工夫するという指導を通して、今後の運動プログラムの提供に関する課題を明らかにする。

3. 結果（または成果）

1) ラジオ体操第一及び第二をベースとしたことの意義について

小学校高学年での「体力を高める運動」では体力を高めるための運動の行い方を理解することがねらいとされ、また中学校ではねらいが異なる運動例をバランスよく組み合わせることが求められている。体力の向上をねらいとして構成されているラジオ体操の動きを取り上げる意義は大きいものと思われる。実践を通して「それぞれの運動が、どこに効果があるのかがわかった」という感想が得られている。

2) ペアでの動きを基本とした効果について

ペアで行うことで「動きが自然と大きくなる」「一人よりも二人の方が楽しい」という感想が多く見られた。また、協力して動くことで「気付き」「調整」「交流」という体ほぐしの運動の効果に着目した感想も得られた。

3) ボール（用具）を使用することの効果について

「ボールを使うだけで楽しい」「運動量も増える」という感想が見られた。一つひとつの運動がより具体的になった結果ではないかと思われる。

4) 音楽の効果について

音楽が変わるだけで「雰囲気が変わる」「楽しくなる」という感想や、「音と動きには相互関係があると感じた」という意見が見られた。体操にとっての音楽の重要性が再認識された。

5) 今後の課題について

継続的にペアラジオ体操を実践している中学校からは、動きに慣れてきた生徒には「ダレ」が生じているとの報告があった。動画配信によって提供すべきは具体的な「運動プログラム」だけではなく、「仲間とかかわり」「用具の利用」「音楽を使用」という創意工夫の大切さと事例を示すことにあるものと思われる。

以上